

永平寺と琵琶湖周辺の史跡を訪ねる歌紀行（最終回）

長崎史談会名誉会長 宮川 雅一

昨夜観賞した映画の中で印象深かったのは、修行僧が寒さを堪えて、この山門の前に佇み、入門を乞う場面であった。体験してみたい気持ちも湧くが、体力を考えると、やっぱり、止めとこう。

48、山門の 前に佇む 修行僧 覚悟の
ほどを 厳しく問われる

ここから下を見ると、無残に伐採された大杉の大きな切株や修復された鐘楼が視界に入る。残った杉は大丈夫なのか大変に気に掛かるところである。鎌倉八幡宮の暗殺者公亮が身を隠した有名な銀杏の大木も倒れたところであるし、これらに対する抜本対策がどうしても必要である。

いよいよ永平寺にお別れ。土産に、荷物にならない、香りのよさそうな線香と永平寺の焼印のある煎餅を購入する。

49、永平寺 参拝土産は 香り良き 名代

の線香 名入りの煎餅

バスに乗るなり、大田監院から土産にもらった般若湯を試飲する。さすが北国越前の銘酒のうえに、しばらく間を置いてのアルコールでもあり、美味しいこと限りなし。予定どおり、伊丹空港16時発のANA167便に搭乗、17時20分長崎空港着、往時と同じく、西脇氏の乗用車で馬町まで送ってもらい、無事帰着した。

50、史談会 身延山から 永平寺 次は
高野と 巡礼続く

次は、弘法大師のお待ちになる真言宗総本山高野山へ、元気にみんなで参りましょう。

以上

*7回に亘って掲載しました宮川名誉会長の「永平寺と琵琶湖周辺の史跡を訪ねる歌紀行」は読むたびに情景を髣髴させる名紀行文でした。次は高野山の旅が待っています。乞うご期待。(編集者)



山門から仏殿を望む